

中田 實 先生を送る

コミュニティ政策学部教授

学部長 保田 正毅

学校法人安城学園が、21世紀を展望して新しい学部・コミュニティ政策学部の開設を計画した時、学部長として白羽の矢をたてられたのが中田實先生でした。名古屋大学において長年にわたり地域社会学の研究に従事され、地域共同管理論をもってコミュニティ研究の第一人者としての地位を築かれていた先生を招聘する事によって、我が愛知学泉大学は全国で初めてのコミュニティ政策学部を誕生させるという榮譽を受ける事ができたのであります。

平成9年4月にご着任以来、中田先生は文字どおり八面六臂のご活躍をして下さいました。平成9年4月、愛知学泉大学コミュニティ政策研究所長就任、コミュニティ政策学部構想の具体化、コミュニティ政策学部の創設と運営（平成10年4月～平成14年3月、初代学部長）、コミュニティ政策学会・研究フォーラムの設立（平成14年6月、初代学会長）と、短期日のうちに次々と新しい事業を起こされ、その中心的役割を担ってこられました。まさにコミュニティ政策学部は中田先生によって理論的に確立され、生命が吹き込まれたといっても決して過言ではありません。

新しい学部を創るにあたって中田先生がとくに留意された点は四つに要約されると思います。第一に、学部のすべての教員は、それぞれの専門分野を追求しながらも、コミュニティ政策の学問的及び教育的構築に共同して当たる体制をつくる、ということであります。それは、学部の全教員が執筆した『コミュニティ政策を学ぶ』によって実を結びました。

第二に、コミュニティ政策学の対象領域（「狭域」「広域」「超域」）に対応した3つの履修モデルを柱とし、コミュニティの現場に参加しつつ学習を可能にするカリキュラムを開発することでありました。それは、「コミュニティ運営実習」、コミュニティの第一線で活躍されている方が授業をされる「現代社会と人間」、「現代の課題」等によって具現化されています。

第三に、新しい学部と教員の使命は教育・研究にとどまらず、積極的に社会に貢献すべき必要性を主張された事です。それに応えて、コミュニティ政策研究所が主催する市民のための各種シンポジウムや、安城市公民館との共催による安城市民公開講座などが開かれています。

第四に、民主主義に基づいた学部運営の追求です。学部運営に当たって、民主的なルールづくり、教授会での徹底した議論の保証、教育懇談会の開催など新学部が直面する諸問題を、中田先生は民主的ルールに則って、冷静に、かつ忍耐強く、解決して来られました。

教育者としての中田先生から、私たちは多くのことを学びました。先生が担当される授業科目「コミュニティ原論」のために手づくりのテキストを編まれたり、大学祭にはゼミ生とともに屋台「どんぐり亭」を出されたり、留学生の生活・進路の問題に誠心誠意心を砕かれ、私たち教員に範を示されました。さらに学部コミュニティづくりの促進剤として広報紙“Community News”の実現にご尽力されたのも中田先生でありました。

中田先生のご活躍は学部内のみにとどまりません。この間、学校法人安城学園の理事・評議員、愛知学泉大学出版会の創立、愛知県、名古屋市、豊田市など自治体の各種委員、豊田市中心図書館読書サークルアドバイザーなどを務められるとともに、全国に及ぶ広い講演活動や研究活動・学会活動にも貢献されてこられました。そして、その研究成果は数多くの著作や学部・研究所の紀要に発表されています。

この度、中田先生が本学をご退職になられることは、コミュニティ政策学部の大黒柱が抜き取られる思いが致します。しかし、先生は我が学部の理論的礎石と屋台骨をしっかりと築かれ、不動のものとしてくださいました。コミュニティ政策学部は現在厳しい状況に置かれています。私たちは当面の苦境にひるむ事なく、先生の志を受け継いで、21世紀にふさわしいコミュニティ政策の学問・学部を創造する覚悟であります。

中田先生の志は高く、その眼差しは21世紀全体に向けられています。中田先生に、今後とも大所高所から私たちをご指導・ご鞭撻下さいませよう、心からお願い致します。